

平成29年4月吉日

岐阜県第二工業学校同窓生 各位
大垣市立工業学校同窓生 各位
岐阜県立大垣工業高等学校同窓生 各位

(一財)岐阜県立大垣工業高等学校同窓会
同窓会長 樋口 武尚

平成29年度大垣工高同窓会 報告会開催のご案内

謹啓

時下、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

平素は本会に格別のご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、『平成29年度大垣工高同窓会』を下記のとおり開催いたします。何かとご多用とは存じますが、お気軽にご参加いただきますようご案内申し上げます。

また、東京支部からの参加もございますので、お知り合いのご友人にお声をかけていただくと幸いです。ご役員一同お待ちしております。

敬具

記

《平成29年度大垣工高同窓会報告会》

日 時 平成29年5月7日（日）15:00 より報告会
場 所 ロワジールホテル大垣
大垣市宮町 1-13 TEL0584-81-0111

参加費 4,000円

日 程 (予定)

1 報告会 15:00～15:45

2 講演 16:00～17:00

演題 『大勢のユダヤ人難民を救ったもう一人の大垣人、「樋口季一郎」』

講師 樋口 隆一 氏 (明治学院大学名誉教授、国際音楽学会副会長)

3 懇親会 17:15～18:45

4 東京支部からの参加者 (7名)

お車でお越しの方の飲酒はご遠慮下さい。ご協力をお願いします。

【お願い】

準備の都合もございますので、ご出席の方は**4月21日（金）**までに、参加費をお振込みください。お振込みをもってご出席のお返事とさせていただきます。

なお、大変申し訳ありませんが、お振込後にご欠席へと変更された場合、返金はいたしかねます。ご了承下さい。その場合、本会へのご協賛金とさせていただきますので、あらかじめご理解ください。

以上

同窓会 本部事務局 担当：南方

TEL/FAX：0584-78-5261 (10:00～16:00)

E-mail：daikou-dosokai@proof.ocn.ne.jp

ご協賛金募集のお願い

本会では、母校への支援等のため、同窓生の皆様に協賛金をお願いしております。皆様からいただいた協賛金は、母校支援費、部活動支援費、そして、同窓会報告会の開催等に使用させていただきます。

ご協賛金額	一口 1,000円
お振込み方法	<ul style="list-style-type: none">同封の払込取扱票をご利用ください。払込取扱票は、参加費とのお支払も兼ねております。お手数料をお掛けしますが、払込内容を必ずご記入ください。ゆうちょ銀行(窓口・払込機能付ATM)にて、ご卒業年次・ご氏名・ご住所・お電話番号を必ずご記入の上、お振込みください。手数料は、本会にて負担させていただきます。 <hr/> <ul style="list-style-type: none">ご都合により、同封の払込取扱票以外でお手続きされる場合は、以下へお振込みください。 <p>《お振込先》 ゆうちょ銀行 〇八九 支店 当座預金 0012056</p>
お問い合わせ	一般財団法人岐阜県立大垣工業高等学校同窓会 本部事務局 担当：南方 TEL/FAX：0584-78-5261 (10:00～16:00 平日のみ) E-Mail：daikou-dosokai@proof.ocn.ne.jp

【報告会日程】

次第

1 報告会 15:00～15:45

開会のことば

黙祷

同窓会長挨拶

学校長挨拶

来賓紹介

報告事項

(1) 役員について

(2) 平成28年度事業報告及び決算報告ならびに監査報告について

(3) 平成29年度事業計画及び予算について

(4) そのほか

各支部・OBの近況報告

閉会のことば

2 講演 16:00～17:00

演題 『大勢のユダヤ人難民を救ったもう一人の大垣人、「樋口季一郎」』

講師 樋口 隆一 氏（明治学院大学名誉教授、国際音楽学会副会長）

リトアニア領事館で杉原千畝が「命のビザ」を発給する2年前（1938年）、氷点下20度の極寒の地、ナチスの迫害から逃れてきた多くのユダヤ人難民は満州とソビエトの国境オトポールで立ち往生していました。満州国外交部はドイツの目を気にして入国を拒否するなか、当時、ハルビン特務機関長であった、樋口季一郎少将は、人道的立場から二万人ともいわれる凍死寸前のユダヤ人難民の命を救いました。

樋口季一郎元陸軍中將のお孫さんで、明治学院大学の樋口隆一名誉教授に24歳まで同居していた祖父から学んだことや秘話、思い出を語っていただきながら、決断の人、樋口季一郎元陸軍中將の歴史的偉業に迫っていきます。

3 懇親会 17:15～18:45

乾杯

校歌斉唱（二工校歌・大工校歌）

万歳三唱

【講師プロフィール】

樋口 隆一

明治学院大学名誉教授 国際音楽学会副会長



樋口 隆一（ひぐち りゅういち、1946年（昭和21年）4月9日生）、音楽学者、指揮者。明治学院大学名誉教授。国際音楽学会副会長。DAAD友の会会長。音楽三田会会長。

祖父は樋口季一郎陸軍中将。東京生まれ。慶應義塾大学文学部卒、同大学院博士課程中退。ドイツ学術交流会（DAAD）奨学生としてテュービンゲン大学に留学。音楽学をゲオルク・フォン・ダーデルセンに師事。1979年、教会カンタータに関する研究で哲学博士。指揮法をアレクサンダー・スムスキーに師事。シュトゥットガルト聖マリア教会代理合唱長、ゲッティンゲン・バッハ研究所客員研究員。帰国後、バッハとシェーンベルクを中心とする西洋音楽史を専門領域としながら指揮者、評論家として活動。1988年京都音楽賞、89年辻荘一賞を受賞。2000年明治学院バッハ・アカデミーを創設し芸術監督。2002年オーストリア学術芸術功労十字章が授与された。明治学院大学文学部芸術学科助教授、教授、文学部長を歴任。2015年退任。同年、ドイツよりテオドル・ベルヒェム賞受賞。

～樋口季一郎とは～

樋口 季一郎（ひぐち きいちろう、1888年8月20日 - 1970年10月11日）、兵庫県淡路島出身。最終階級は陸軍中将。歩兵第41連隊長、第3師団参謀長、ハルピン特務機関長、第9師団師団長等を歴任し、最終役職は第5方面軍司令官兼北部軍管区司令官。

1888年淡路島にある兵庫県三原郡本庄村上本庄（町村制後：阿万村、現：南あわじ市阿万上町字戈の鼻）に父・奥濱久八、母・まつの5人兄弟の長男として出生。奥濱家は廻船問屋で代々続く地主であったが、明治以降、蒸気船の普及に伴い時代の流れに取り残され父・久八の代で没落した。1901年三原高等小学校2年終了後、私立尋常中学鳳鳴義塾に入学、1902年大阪陸軍地方幼年学校を経て、18歳で岐阜県大垣市歩行町の樋口家の養子となった（父・久八の弟・勇次が樋口家の婿養子となったが子宝に恵まれず、甥の季一郎を養子とした）。1909年陸軍士官学校（21期）に進む一方、東京外語学校でロシア語を徹底的に学ぶ。陸軍大学校（30期）卒業後すぐ1919年にウラジオストクに赴任（シベリア出兵）。満州、ロシア方面部署を転々と勤務、1925-28年、在ポーランド公使館駐在武官（少佐）としてワルシャワに赴任、ユダヤ人問題を学ぶ。1935年、第3師団参謀長としてハルピン滞在、36年名古屋に帰還。1937年、ドイツに派遣され、ナチスドイツの実情を視察。1937-38年、ハルピン特務機関長。ユダヤ難民救済に貢献。1938-39年、参謀本部第2部長（情報担当）として「ユダヤ人対策要綱」作成、ノモンハン事件終結に貢献。1939-42年、第9師団長。1942年、北部軍司令官。43年、北部方面軍司令官。アッツ島玉砕、キスカ島撤退作戦。44年、第5方面軍司令官。45年、占守島対ソ防衛戦。ソ連の北海道占領を阻む。戦後は小樽近郊朝里、宮崎県小林市等に隠棲。1970年東京にて没。享年82歳。

